

信長探訪倶楽部11月行事 浅井、朝倉攻め

9月行事の「比叡山焼き討ち」後、武田信玄がいよいよ上洛に向けて動き出し、三方ヶ原にて織田・徳川軍が惨敗の憂き目にあうことはあったが、信玄死亡の報を得て後顧のうれいのなくなった信長は、小谷城の浅井長政に攻めかかった。長政から応援要請を受けた朝倉義景は、いつものように小谷城後方の大嶽砦に陣取ろうとしたが、信長は先手を取って大嶽砦に攻めかかり、これを落としてしまった。このため義景は寄る辺がなくなり、本国に引き返そうとした。これを待っていた信長軍に攻めかけられ、朝倉軍は負けに負けでとうとう朝倉館を捨てて、大野まで逃げてついに切腹して果ててしまった。

今回は、信長軍に焼かれてしまった朝倉館跡を訪ねた。見るところが多くて時間を取られたので、帰りによる予定であった浅井長政の小谷城跡は、次回訪問となってしまった。

次回は、浅井の小谷城跡と信長が浅井攻めのため目の前につくった虎御前山砦跡の見学を予定しています。





3人が立っている一乗谷川は、唐門のある朝倉館を守るがごとく、兩岸共石垣が築かれている。当時1万7千人が暮らしていたというこの地は、山に囲まれた盆地状で出入り口には上城戸、下城戸と頑丈な城門があり、町全体が一つの城であった。



唐門前の川で鯉を鑑賞後、館跡庭園を見学した。朝倉義景の墓所にお参りしてから高台にある湯殿跡から館跡を眺めた。中ほどに花壇跡が望める。



今日は朝倉館跡特別鑑賞会の期間中で、館跡に座敷が設けられており、そこで若い案内嬢の説明を受けた。そのせいか少し顔がゆるんでいる。背景は池庭である。



朝倉館跡前の一乗谷川の向かいには、発掘に基づいた復原町並みがつくられていたので、そのひとつ復原武家屋敷を見学中。



復元町並みの通りを散策。目の前にいたのはフランスの撮影クルーだった。何を取材しようとしているのか、近くまで寄って行ったがチンプンカンプン。ことばが…？